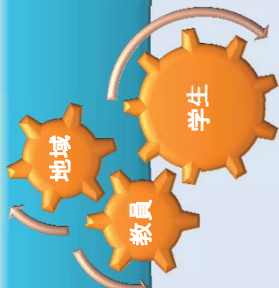


**平成26年度愛媛大学COC
事業**

資料3

地域の未来をステークホルダーと 共に創る実践的人材の育成

地域とともに知を
育成する機能を
強化・充実！



平成26年度
愛媛大学COC事業

地域志向教育・研究を推進するための産学官民金による企画・運営組織の設置
COCサテライト拠点を活用した、自治体との連携による実践的地域志向型教育・研究の充実化・効率化
地域密着型研究センターによる地域イノベーションの創出

**愛媛県の
解決すべき地域課題**

東予地域＝ものづくり人材の育成
中予地域＝まちづくり人材の育成
南予地域＝農林水産業を担う
人材の育成

企画・運営 【地域共創コンソーシアム】
大学・地方自治体・企業・金融機関・NPO・地域住民で構成

学生教育

- 全学必修科目「愛媛学」の新設
- 学生主体の地域学習

リカレント教育

- COCサテライトの新設とそれを活用した教育
- 地域課題対応7講座

研究・社会貢献

地域産学連携活動の活性化：**地域イノベーションの創出**

プロジェクト
マネージャー



地域連携
コーディネーター

**COC
サテライト
拠点**

各 自治体職員
コーディネーター

松山サテライト
八幡浜サテライト
西予サテライト
宇和島サテライト
愛南サテライト

東温サテライト
今治サテライト
西条サテライト
新居浜サテライト
四国中央サテライト

**COC
サテライト
拠点**

各 自治体職員
コーディネーター

実践的人材の輩出

- ☑ 地域の人々と協調し、コミュニケーションする能力
- ☑ 地域の多様なステークホルダーをコーディネートする能力
- ☑ 地域での活動に持続的に関わることのできる忍耐力とリーダーシップ
- ☑ 地域課題の解決に繋がるアイデアを発想して取り組む行動力

愛媛県・各市町

社会共創学部の概要

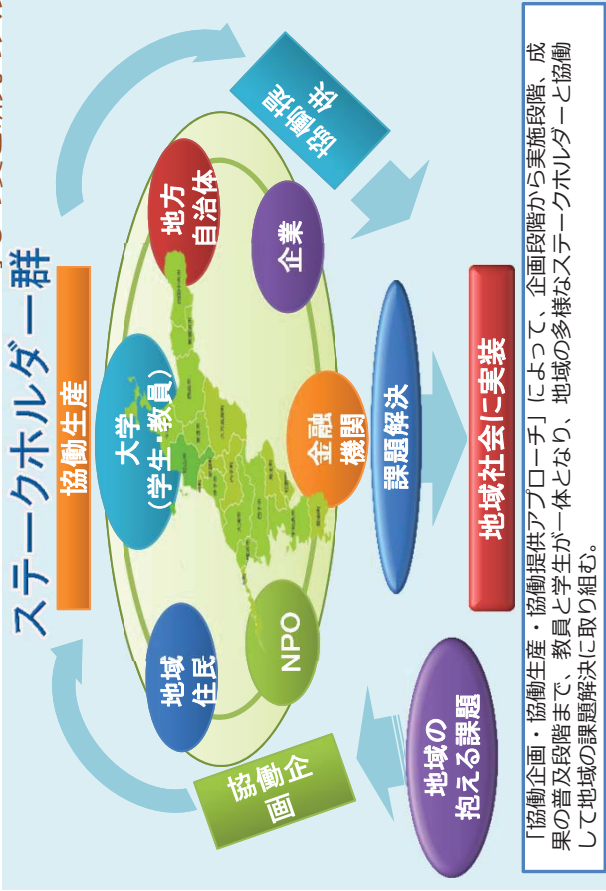
資料4

社会共創学部概要

資料4

地域の未来をステークホルダーと共に創る実践的人材の育成を目指す

～学びの質と研究のスタイルを刷新する専門領域横断型の新学部構想～



愛媛大学社会共創学部

入学定員180人

教育理念

様々な地域社会の持続可能な発展のために、多様なステークホルダーと協働しながら、課題解決策を企画・立案することができ、様々な地域社会を価値創造へと導く力(=「社会共創力」)を備えた人材を育成する。

※ステークホルダー：地域住民、企業、NPO、行政など

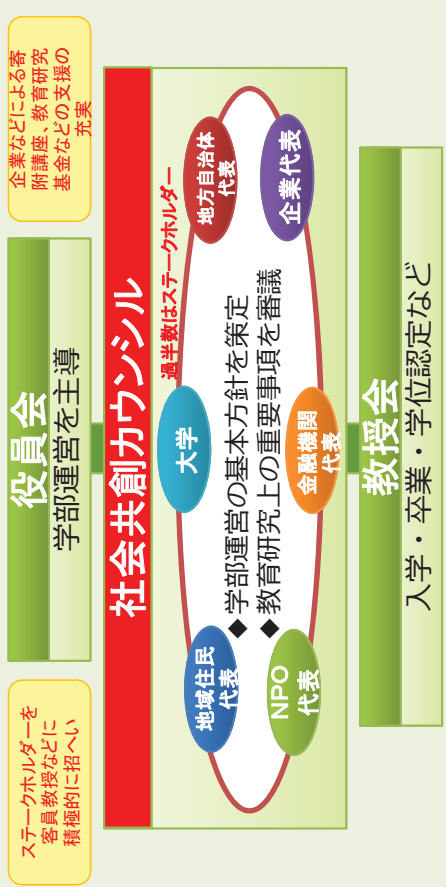
育成するコンピテンシー

- ◆ 地域の人々と協調し、コミュニケーションする能力
- ◆ 地域の多様なステークホルダーをコーディネートする能力
- ◆ 地域での活動に持続的に関わることのできる忍耐力とリーダーシップ
- ◆ 地域課題の本質を見抜き、解決に資する知識と技術をステークホルダーとともに創出・活用できる能力

教育の特色

- 文系理系双方の知識を有し、社会共創力を備えた人材を育成
- 学生・教員・ステークホルダーが一体となったフィールドワークを実施
- 国内・海外インターンシップによる円滑な就職の推進

新たな学部運営戦略



産業マネジメント学科

・産業マネジメントコース

70

【育成人材像】
地域産業の持続的な発展に求められる「地域に根差した課題解決型」教育を展開し、専門領域横断型の人材を育成

産業イノベーション学科

・海洋生産科学コース

25

【育成人材像】
産業技術開発に必要な基礎理論と技術、新技術の普及に不可欠な経営とマネジメントに関する基礎知識を修得し、これらを横断的に幅広く活用することで、地域産業の発展に貢献できる専門性をもったセラリストを育成

環境デザイン学科

・環境サステナビリティコース

35

【育成人材像】
地域社会が抱える危機(都市機能衰退化問題・商店街衰退化問題・自然災害問題など)に対処し、持続可能な地域社会や地球環境の創造に向けて、地域政策や国際政策を運営・推進できる人材を育成

地域資源マネジメント学科

・豊山漁村マネジメントコース

50

【育成人材像】
地域資源に関する幅広い専門知識及び研究能力、並びにこれら資源を美社会で活用・創造等ができるマネジメント能力を養い、多様な地域ステークホルダーとの協働を通して地域の資源を活かした活動(企業内外含む)をコーディネートできる人材を育成

学科構成

**地域の持続的発展に責任を
もつ知の拠点、愛媛大学**

資料5

「地域の持続的発展に責任をもつ知の拠点、愛媛大学」

～グローバル化時代にふさわしい地域中核機能の追求～

大学を取り巻く
課題と社会的ニーズ

- 「知の拠点」である大学の抜本的な機能強化が「日本再生」のためには必須要件
- 各大学の強み・特色を最大限に生かし、自ら改善・発展する仕組みを構築することが肝要
- 持続的な「競争力」をもち、高い付加価値を生み出す大学への脱皮が必要

愛媛大学は、強み・特色の重点化という視点から、
4つの機能強化の方向性を定める。

4つの機能強化の方向性

① 地域中核機能
ステークホルダーと共に創る
地域の未来

② 教育機能
地域の発展に貢献できる
国際性を備えた人材の育成

③ 研究機能
個性溢れる研究成果を
地域から世界に発信

④ 大学病院機能
地域から信頼される
高度先進医療拠点の強化

機能強化を実現するために必要な教育組織改革を早急を実施

【学士課程の改革（平成28年度計画）】



- 1 地域に特化した
新学部「社会共創
学部」を設置
- 2 法文学部を2学科
から1学科に改組
- 3 教育学部の
新課程を廃止し、
教員養成に特化
- 4 農学部を1学科
から3学科に
改組

社会共創学部の教育課程概要

資料6

社会共創学部 教育課程概要

「人に学ぶ」「地域に学ぶ」「自然環境に学ぶ」「専門領域横断型教育の実践

教育の特色

資料6

学際的な「専門領域横断型教育」の実践

- ①フィールドワーク・インターンシップを学部コア科目として位置づけ、専門分野が異なる教員、文系理系の多様な学生、地域・ステークホルダーが一体となった実践的教育を実現（専門領域横断型教育）
- ②4学科のスケールメリットを活かした充実の教育コンテンツ、多様な文系・理系授業科目を設け、文系の課題、理系の課題双方に対し、文系的アプローチ、理系的アプローチ、体系的アプローチから課題解決へ導く社会共創力を備えた人材の育成を実現

地域の人々と協働し 目標達成へ導く人材の誕生

フィールドワークや
インターンシップでは、
海外での活動を積極的
に推奨！



実践力育成科目群

多様なステークホルダーと
協働し、複眼的な洞察力・
創造力・課題解決力を積み
上げる

- ・プロジェクト応用演習
 - ・プロジェクト実践演習
- 地域ステークホルダーとともに、
プロジェクトを進める実践力を
身に付ける

- ・プロジェクト基礎演習
- 社会共創に必要な様々な専門分野を
活用しながら、地域のステークホルダー
とともに地域の課題や可能性について
考える

- ・フィールド実習
- 愛媛県内の様々な市町村で、ステークホ
ルダーとともに多様な視点から地域の課題
について考える

- ・フィールド基礎実習
- 社会共創を学ぶトリアル実習。キャンパス周辺
の身近な「地域」をフィールドに、地域を見る・考え
る方法を学ぶ
- ・フィールドワーク入門
- プロジェクトを進めるための方法・スキルを学ぶ

インターンシップ科目 (2単位必修)

基礎から発展へ就業力の積み上げ

フィールドワーク科目(11単位必修)

段階ごとに学生と地域との
かかわりが増すカリキュラム

実践力育成発展科目(4単位＋8単位)

学科別

学位認定科目群(6単位)

地域に活かす社会共創力を身に付ける

専門力育成科目群

文理双方の専門的理論を学び、専門知識、
学際的思考力を積み上げる

- 産業マネジメント学科
(学科科目6単位、履修コース科目40単位)
- 産業イノベーション学科
(学科科目14単位、履修コース科目34単位)
- 環境デザイン学科
(学科科目24単位、履修コース科目22単位)
- 地域資源マネジメント学科
(学科科目12単位、履修コース科目36単位)

自己デザイン科目(8単位)

課題解決思考力育成科目群 (2科目4単位必修、1科目2単位選択必修)

多様な専門基礎分野を学び、課題解決に必
要な文系・理系アプローチの基礎(実践力及
び専門力)を身に付ける

基礎力育成科目群(8単位必修) 社会・フィールドへ出るための基礎知識・態度を学ぶ

共通教育科目群(31単位) 大学で学ぶための基礎力(スタディスキル、情報リテラシー)のほか、諸科学の基礎的知識を身に付ける

学力を含む多面的・総合的評価による入学者選抜の実施

地域支援活動

福祉ボランティア、NPO運営 過疎化高齢化支援

社会交流活動

総合型地域スポーツクラブ、ボランティア、地域イベント
企画運営 店舗運営、ベンチャー企業活動

準正課教育

正課外活動

4年次

3年次

2年次

1年次

入試

**社会共創学部が育成する
新しい人材像**

資料7

資料7 学士(社会共創学)

社会共創学部が育成する新しい人材像

「社会共創学」・・・地域社会が抱える課題を解決する道筋を示し、その持続可能な発展に貢献するための学問であり、「トランスデザインプリナリーアプローチ」を取り入れた**社会課題解決型の実践科学**



社会共創学部¹の教育方針

資料8

社会共創学部教育方針

資料8 「人に学ぶ」「地域に学ぶ」「自然環境に学ぶ」専門領域横断型教育の実践

社会共創学部育成人材像

社会共創学部は、様々な地域社会の持続可能な発展のために、多様な地域ステークホルダーと協働しながら、課題解決策を企画・立案することができ、様々な地域社会を価値創造へと導く力（＝社会共創力）を備えた人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 文系や理系の広範な学問領域における教養や専門的知識及び高度な実技力を身につけている。（知識・実技）
2. 地域社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。（思考・判断）
3. 地域社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続けることができる。（関心・意欲・態度）
4. 地域社会を新たな価値創造へと導こうとする意欲を有し、地域社会の諸課題の解決に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）
5. 地域社会の諸課題の解決に必要な情報を収集・整理・分析できる。（技能・表現）
6. 自己の思考・判断のプロセス及び結果を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。（技能・表現）
7. 地域社会の諸課題の解決に向けて、サーバントリーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）

カリキュラム・ポリシー（CP）

社会共創学部は、定められたディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のようにカリキュラム・ポリシー（CP）を定める。共通教育科目を通して、社会科学系・人文科学系及び自然科学系を含めた幅広い教養や語学を身に付ける。本科目は、DP（知識・実技）に強く関連する。共通教育科目を基礎に積み上げられる専門教育科目を身に付けるべく、専門教育科目を用意している。本学部は、専門教育科目を基礎力育成科目群、実践力育成科目群、課題解決思考力育成科目群、専門力育成科目群、学位認定科目群、5つに科目区分する。

1. **基礎力育成科目群**では、科学と地域社会が連携して知の統合を構築する視点を養う科目（社会共創学概論）、地域産業の発展を根底から支える地域企業の在り方に関する入門科目（経営入門）を配置する。さらには、サーバントリーダーシップが備える能力・資質を理解し、学部で学び続ける素養を身に付ける科目（サーバントリーダーシップ入門）を配置する。また、地域社会の現状と課題を把握するために必要となる基礎的な調査手法などを身に付ける科目（地域調査方法入門）を配置する。基礎力とは、理論基礎力と実践基礎力の双方である。本科目群は、DP（知識・実技）/（技能・表現）/（リーダーシップ）に強く関連する。
2. **実践力育成科目群**では、専門知識の活用・理論に裏打ちされた実践力を身に付けるために、アクティブ・ラーニングの手法を原則としたフィールドワーク科目を配置する。また、自己確立とキャリア探究の基礎を構築するために、インターンシップ科目を配置する。その上で、各学科の学生が地域社会が抱える諸課題を解決する能力を身に付けるべく、実践力育成発展科目を配置する。本科目群は、DP（思考・判断）/（関心・意欲・態度）/（技能・表現）/（リーダーシップ）に強く関連する。
3. 課題解決思考力育成科目群では、多様な課題を発見・解決するための素養を引き出すため、各学科の固有の専門領域横断的な科目を必修科目として配置するとともに、専攻以外の専門分野の基礎知識を総合的かつ体系的に学ぶ学際的パッケージ科目を配置する。本科目群は、DP（知識・実技）/（技能・表現）に強く関連する。
4. **専門力育成科目群**では、基礎力育成科目群で修得した社会共創基礎力を基礎とした上で、より高度な専門知識や理論を修得することで、実践力育成科目群において地域社会の具体的な問題解決を行い、各専門領域における専門知識を現場で応用できるよう、各学科で必要とされる高度で深みのある専門科目を必修化し、それに関連する科目を学問系列ごとに分けて履修コース科目として配置する。さらに、実践力育成科目群で生じた新たな関心・意欲に応え、幅広い学問領域における専門知識を体系的に修得するため、他学科・他学部科目の履修を推奨する。本科目群は、DP（知識・実技）/（思考・判断）/（関心・意欲・態度）/（リーダーシップ）に強く関連する。
5. **学位認定科目群**では、学科DPにおける能力やスキルの集大成である社会共創力を修得しているかどうかを、評価・判断される。この科目群には、それまで修得できた知識やスキルを統合し、複眼的な視点から問題の解決と新たな価値創造につなげていくために、卒業研究・自由課題研究を設け、少人数教育として懇切丁寧な個別指導を行う。また、卒業認定に向けたこれまでの正課教育・準正課教育・正課外活動での学習の振り返りを行った上で、学位認定に必要な知識や情報を収集し、自ら課題解決の策定及び成果発表をサポートする社会共創演習科目も併せて配置する。本科目群は、DP（知識・実技）/（思考・判断）/（関心・意欲・態度）/（リーダーシップ）に強く関連する。

アドミッション・ポリシー（AP）

1. 高等学校で履修する範囲の基礎学力または専門的な知識ないし実技力を有している。（知識・実技）
2. 目標を達成するために、多面的視点から論理的に考察し、自己の考えをまとめられることができる。（思考・判断）
3. 地域社会の持続可能な発展に関心をもち、積極的に関わろうとする意欲を有している。（関心・意欲・協働）
4. 様々な人々とグループワークしながら、主体的に問題の発見とその解決に取り組む姿勢を有している。（関心・意欲・協働）
5. 他者の意見を理解し、自己の考えを口頭または文書で表現できる。（技能・表現）

大学の理念を
教育・研究に反映

愛媛大学憲章／
愛大学生コンピテンシー

地域のニーズを共有し、
教育・研究に反映

『社会共創カウンスル』を組織し、
産官学一体となった学部運営

体系的カリキュラムで専門力と実践力を効果的に育成

『社会共創力』を身に付けるカリ
キュラムマップ及びループリック

資料9

産業マネジメント学科

Table with 11 columns: 1年次 (1st Year), 2年次 (2nd Year), 3年次 (3rd Year), 4年次 (4th Year). Rows include subjects like '新入生セミナーA', '経営学', 'ファイナルド実習', and '卒業研究'. It details course names, evaluation methods, and learning outcomes across four years.

Summary table for '産業マネジメント学科'. Rows include '基礎教育科目群' (31), '基礎力育成科目群' (4), '専門力育成科目群' (14), '学位認定科目群' (66), and '合計(単位)' (115). Columns include '関係: 態度(DP3)', '関係: 態度・態度(DP4)', '関係: 態度(DP5)', '関係: 態度(DP6)', '関係: 態度(DP7)', '関係: 態度(DP8)', '関係: 態度(DP9)', '関係: 態度(DP10)', '関係: 態度(DP11)', '関係: 態度(DP12)', '関係: 態度(DP13)', '関係: 態度(DP14)', '関係: 態度(DP15)', '関係: 態度(DP16)', '関係: 態度(DP17)', '関係: 態度(DP18)', '関係: 態度(DP19)', '関係: 態度(DP20)', '関係: 態度(DP21)', '関係: 態度(DP22)', '関係: 態度(DP23)', '関係: 態度(DP24)', '関係: 態度(DP25)', '関係: 態度(DP26)', '関係: 態度(DP27)', '関係: 態度(DP28)', '関係: 態度(DP29)', '関係: 態度(DP30)'.

産業イノベーション学科

身に付けた能力	科目のディプロマの取得	1年次				2年次				3年次				4年次					
		第1・IIQ	第III・IVQ	詳細水準	第1・IIQ	第III・IVQ	詳細水準	第1・IIQ	第III・IVQ	詳細水準	第1・IIQ	第III・IVQ	詳細水準	第1・IIQ	第III・IVQ	詳細水準			
課題解決力 国際的視野 コミュニケーション力 持続可能な社会 社会共創力 複眼的視点 発見的視点 倫理的視点 社会的判断力	社会共創力/産業イノベーション/創出力	新入生セミナーA	特許技術リサーチ入門	水産業、絹産業、ものづくり等の専門知識となる知識を修得し理解している。	産業経済論	水産学	水産学	水産学	水産学	水産学	水産学	水産学	水産学	水産学	水産学	水産学			
		新入生セミナーB	社会力入門		地域経済学	加工学	産業界イノベーション論	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	
		こころと健康	学問分野別科目		産業界イノベーション論	情報産業論	工業材料	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計	ものづくり設計
		スポーツ	英語III		水産社会学	情報産業論	基礎電磁学	水産社会学	水産社会学	水産社会学	水産社会学	水産社会学	水産社会学	水産社会学	水産社会学	水産社会学	水産社会学	水産社会学	水産社会学
		情報リサーチ入門I	英語IV		基礎電磁学	原価計算論	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学
		情報リサーチ入門II	社会共創学		基礎電磁学	原価計算論	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学
		英語学	情報可能性科学		工業力学	ピントニアフラインクス	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学
		学問分野別科目	材料と強度		基礎電磁学	ピントニアフラインクス	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学
		英語I	地域社会論		整理的思考	地球科学イノベーション	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学
		英語II	地球社会論		整理的思考	地球科学イノベーション	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学
		産業界入門	産業界入門		整理的思考	地球科学イノベーション	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学
		産業界入門	産業界入門		整理的思考	地球科学イノベーション	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学
		産業界入門	産業界入門		整理的思考	地球科学イノベーション	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学
		産業界入門	産業界入門		整理的思考	地球科学イノベーション	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学
		産業界入門	産業界入門		整理的思考	地球科学イノベーション	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学
		産業界入門	産業界入門		整理的思考	地球科学イノベーション	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学
		産業界入門	産業界入門		整理的思考	地球科学イノベーション	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学	基礎電磁学

知識・実践【DP1】	関心・意欲・態度【DP2】	関心・意欲・態度【DP3】	関心・意欲・態度【DP4】	技能・表現【DP5】	技能・表現【DP6】	リサーチ【DP7】
31						
4				2		2
12				2		2
2		5	10	2		6
144	20	12	8	14		4
8	8			2		2
193	30	17	12	14		12

環境デザイン学科 授業計画	1年次	2年次	3年次	4年次	評価水準	評価水準	評価水準	評価水準	
基礎力	第Ⅰ-IIQ 新入生ゼミナール 社会力入門 こころと健康 スポーツ 情報リテラシー入門Ⅰ 情報リテラシー入門Ⅱ 授業Ⅰ 授業Ⅱ	第Ⅰ-IIO 地域経営学 産業イノベーション論 環境デザイン論 分業 環境修復学 環境デザイン論 生物多様性保生学 環境統計学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学	第Ⅲ-IVQ 地球科学野外交習Ⅱ 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅰ-IIQ 環境倫理学 環境修復学 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	
専門力	第Ⅰ-IIQ 新入生ゼミナール 社会力入門 こころと健康 スポーツ 情報リテラシー入門Ⅰ 情報リテラシー入門Ⅱ 授業Ⅰ 授業Ⅱ	第Ⅰ-IIO 地域経営学 産業イノベーション論 環境デザイン論 分業 環境修復学 環境デザイン論 生物多様性保生学 環境統計学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学	第Ⅲ-IVQ 地球科学野外交習Ⅱ 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅰ-IIQ 環境倫理学 環境修復学 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学
実践力	第Ⅰ-IIQ 新入生ゼミナール 社会力入門 こころと健康 スポーツ 情報リテラシー入門Ⅰ 情報リテラシー入門Ⅱ 授業Ⅰ 授業Ⅱ	第Ⅰ-IIO 地域経営学 産業イノベーション論 環境デザイン論 分業 環境修復学 環境デザイン論 生物多様性保生学 環境統計学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学	第Ⅲ-IVQ 地球科学野外交習Ⅱ 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅰ-IIQ 環境倫理学 環境修復学 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学
総合的批判力	第Ⅰ-IIQ 新入生ゼミナール 社会力入門 こころと健康 スポーツ 情報リテラシー入門Ⅰ 情報リテラシー入門Ⅱ 授業Ⅰ 授業Ⅱ	第Ⅰ-IIO 地域経営学 産業イノベーション論 環境デザイン論 分業 環境修復学 環境デザイン論 生物多様性保生学 環境統計学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学	第Ⅲ-IVQ 地球科学野外交習Ⅱ 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学 環境デザイン論 環境修復学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅰ-IIQ 環境倫理学 環境修復学 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学	第Ⅲ-IVQ 環境倫理学 都市の環境問題 国土整備と開港法 水環境保全 応用地球科学 地理情報システム学 自然社会環境学 自然資源学

知識・実践(DP1)	知識・実践(DP2)	関心・意欲・態度(DP3)	関心・意欲・態度(DP4)	技能・表現(DP5)	技能・表現(DP6)	リサーチ(DP7)
31						
4		1	6	2		2
12		8	2	5		8
82		14	2	5		4
		8		2		2
129		24	9	14		10

基礎教育科目	基礎力養成科目	基礎力養成科目	専門力養成科目	学位認定科目	合計(単位)

地域資源マネジメント学科

Table with columns for 1st year (1年次), 2nd year (2年次), 3rd year (3年次), 4th year (4年次) and rows for subjects like 新入生ゼミナーB, 地域経済学, 地域文化論, etc.

Summary table with columns: 基礎教育科目, 基礎力養成科目群, 実践力養成科目群, 専門力養成科目群, 学位認定科目群, 合計(単位). Rows include 共通教育科目, 基礎力養成科目群, etc.

カリキュラム・アセスメント・
チェックリスト

資料10

カリキュラム・アセスメント・チェックリスト

資料10

社会共創学部のDP

DP1(知識・実技)	文系や理系の広範な学問領域における教養や専門的知識及び高度な実技力を身に付けている。
DP2(思考・判断)	地域社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。
DP3(関心・意欲・態度)	地域社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続けることができる。
DP4(関心・意欲・態度)	地域社会を新たな価値創造へと導こうとする意欲を有し、地域社会の諸課題の解決に取り組むことができる。
DP5(技能・表現)	地域社会の諸課題の解決に必要な情報を収集・整理・分析できる。
DP6(技能・表現)	自己の思考・判断のプロセス及び結果を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。
DP7(リーダーシップ)	地域社会の課題の解決に向けて、サーバントリーダーシップを発揮することができる。

番号	名称	実施時期	実施頻度	対象	質問項目(対応DP含む)	手法	評価者	実施責任者	結果の活用方法
1	授業評価アンケート (学部が指定する科目について実施)	授業実施時	毎年	学部学生	・学習成果についての設問(DP1、2に対応)	質問紙	学部学生	FD担当教員	アンケート結果及び教員のコメントを学科のホームページ上に公開。アンケート結果は各教員が授業改善のための参考資料とする。
2	学修ポートフォリオ (卒業予定者アンケート)	1月～3月	毎年	卒業予定者	・学習成果についての設問(DPとの関連を含む)	質問紙	学部学生	自己点検評価担当教員	教育改善及びカリキュラムの見直しのための参考資料とする。
3	就職先アンケート	年末	3年に一度	就職して3年が経過した企業	・学習成果についての設問(DPとの関連を含む)	質問紙	企業担当者	自己点検評価担当教員	教育改善及びカリキュラムの見直しのための参考資料とする。
4	卒業論文・演習論文	1月末	毎年	4回生	・学生の能力(DP1-5に対応)	論文原稿の提出	指導教員	指導教員	・成績最優秀者の氏名及び卒業研究の題目を公表する。 ・学生指導の改善のために役立てる。
5	卒業研究発表会 (プレゼン・質疑応答)	2月	毎年	4回生	・学生の能力(DP1-6に対応)	論文審査ないしプレゼンテーションをルーブリック評価により	各コース教員	各学科長	評価結果を学部教員に周知する。
6	FD懇談会	9月・2月	毎年	学部学生・教員 (各々若干名)	・教育指導上の問題点など(教員の場合) ・カリキュラム及び教育に対する満足度(学生の場)	教員間における意見交換または教員と学生の懇談	学部学生	FD担当教員	FD懇談会報告書を作成・配布する。
7	シラバス改善計画	12月～1月	毎年	専門教育科目の担当教員(非常勤を除く。)	・「授業の到達目標」がDP(カリキュラムチェックリスト)に対応しているか	シラバス原稿	授業担当教員	FD担当教員	シラバスの記載に不備がある場合は、教員に加筆・訂正を求める。
8	フィールドワーク 報告書	前期末/ 後期末	毎年	フィールドワーク科目 履修者	・学生の能力(DP2-6に対応)	報告書作成(ないし成果発表)	授業担当教員 地域ステークホルダー	科目担当教員	教育効果を測る基礎資料とする。 地域ステークホルダー、学部教員に配布する。
9	成績評価、GPA	4月	隔年	学部学生	・成績評価分析	単純集計法 (実数)	授業担当教員	FD担当教員	成績評価の有意差等を分析し報告書にまとめ、学部教員に配布する。
10	資格取得	2月	毎年	資格取得関連の 専門科目	・単位取得状況	単純集計法 (実数)	授業担当教員	FD担当教員	資格取得状況を分析し、学生の希望通りの取得状況への改善に役立てる。

社会共創学部と他の学部との 違い

資料11

社会共創学部と他の学部との違い

トランスディシプリナリアプローチにより、
絶え間なく変化する地域の諸課題に対応し、地域創生を実現

学部	育成人材像	出口	学士
<p>地域創生の切り札 社会共創学部</p>	<p>課題解決思考力・ サーバンントリーダーシップを兼ね備え、 地域社会の再生・再構築を担う 「社会共創力」を備えた人材</p>	<p>地域産業振興企業・地元金融機関・ 商工会議所/経済同友会・起業家・ 水産関連企業・団体、紙産業関連企業・団体・ ものづくり産業関連企業・団体地方公務員(技術職)・ NPO/NGO・公益法人・地元観光関連連業・ スポーツイベントプランナー・地元社会福祉事業団・ 農協・漁協・自営業・ 地方公務員(地域振興・教育行政)など</p>	<p>社会共創学</p>
工学部	工学・技術の分野で技術者・研究者等として 社会に貢献できる人材	大手建設会社・情報通信会社・石油会社・大手製薬会社・ 電気・ガス会社・大手鉄道会社・大手ボイラー会社・ 大手自動車メーカー・大手造船会社・など	工学
理学部	「未知への挑戦」の精神に立って科学・科学技術 の継承・発展に寄与する人材	大手食品加工会社・大手自動車メーカー・大手薬品会社・ 大手製造会社・理科学研究所など	理学
教育学部	豊かな人間性と実践的指導力を 兼ね備えた学校教員	幼稚園教員・小学校教員・中学校教員・高等学校教員・ 特別支援学校教員・保育士など	教育学
農学部	地域社会や国際社会における食料・資源・環境 に関する様々な問題を解決し、自然と人間が調 和する循環型社会の創造に貢献できる人材	大手農機メーカー・農林水産省などの国家公務員・食 品加工業・飲料品加工業・農協・県庁・市役所などの地 方公務員	農学
(新)法文学部	人文社会科学の知識を基盤とした 実践知を備えたグローバル人材	国家公務員・地方公務員(主として行政職)/法律専門 職/官公庁外郭団体/国際公務員/外務公務員/NPO・ NGO/中高国語・英語・社会科教員/図書館・博物館/ ロースクール/国際観光業/マスコミ・一般企業など	法学・政策学、学術、 人文学

社会共創学部カリキュラムチェックリ
スト、アクティブ・ラーニング型授業、
専門領域横断型授業の開講状況一覧

資料12

社会共創学部カリキュラム・チェックリスト、 アクティブ・ラーニング型授業、専門領域横断型授業の開講状況一覧

	産業マネジメント学科	産業マネジメント学科		産業イノベーション学科	環境デザイン学科		地域資源マネジメント学科		学部合計		
		科目数	専門教育科目に占める割合		科目数	専門教育科目に占める割合	科目数	専門教育科目に占める割合	科目数	専門教育科目に占める割合	
専門教育科目数	89	50	56.2%	127	88	123	427				
アクティブ・ラーニング型授業		50	56.2%	51	40.2%	53	60.2%	115	93.5%	269	63.0%
専門領域横断型授業		46	51.7%	42	33.1%	49	55.7%	68	55.3%	205	48.0%
◎ DP 1 【知識・実技】	◎	40	44.9%	79	62.2%	49	55.7%	47	38.2%	215	50.4%
○ DP 2 【思考・判断】	○	13	14.6%	23	18.1%	17	19.3%	28	22.8%	81	19.0%
◎ DP 3 【関心・意欲・態度】	◎	26	29.2%	12	9.4%	10	11.4%	28	22.8%	76	17.8%
○ DP 4 【関心・意欲・態度】	○	48	53.9%	81	63.8%	36	40.9%	58	47.2%	223	52.2%
◎ DP 5 【技能・表現】	◎	4	4.5%	9	7.1%	5	5.7%	9	7.3%	27	6.3%
○ DP 6 【技能・表現】	○	53	59.6%	97	76.4%	48	54.5%	74	60.2%	272	63.7%
◎ DP 7 【リーダーシップ】	◎	4	4.5%	6	4.7%	4	4.5%	15	12.2%	29	6.8%
○ DP 8 【リーダーシップ】	○	11	12.4%	18	14.2%	12	13.6%	17	13.8%	58	13.6%
◎ DP 9 【リーダーシップ】	◎	9	10.1%	7	5.5%	7	8.0%	16	13.0%	39	9.1%
○ DP 10 【リーダーシップ】	○	55	61.8%	106	83.5%	47	53.4%	53	43.1%	261	61.1%
◎ DP 11 【リーダーシップ】	◎	3	3.4%	10	7.9%	10	11.4%	3	2.4%	26	6.1%
○ DP 12 【リーダーシップ】	○	41	46.1%	29	22.8%	20	22.7%	60	48.8%	150	35.1%
◎ DP 13 【リーダーシップ】	◎	3	3.4%	4	3.1%	3	3.4%	5	4.1%	15	3.5%
○ DP 14 【リーダーシップ】	○	18	20.2%	17	13.4%	12	13.6%	34	27.6%	81	19.0%

カリキュラムチェックリスト

注1)表中、アクティブ・ラーニング型授業とは課題研究やPBL (project/problem based learning)、ディスカッション、プレゼンテーションなど、学生の能動的な学習を取り入れた授業形態のことを指し、授業の半分以上のコマでこのような形態で実施するものを指す。
注2)表中、専門領域横断型授業とは、文系の教員が理系の専門領域を含めた内容の授業を、または理系の教員が文系の専門領域の内容を含めた内容の授業を行う授業科目を指す。

共通教育科目教育課程表

資料13

共通教育科目教育課程表

平成28年度入学生に適用する共通教育科目教育課程表

社会共創学部

共通教育科目	履修最低単位数	1年次										2年次							
		10		20		30		40		10		20		30		40			
		授業科目名等	単位	授業科目名等	単位	授業科目名等	単位	授業科目名等	単位	授業科目名等	単位	授業科目名等	単位	授業科目名等	単位	授業科目名等	単位		
初年次科目	2	新入生セミナーA	2	新入生セミナーA	2														
		新入生セミナーB	2	新入生セミナーB	2														
		こころと健康	2	こころと健康	2														
		スポーツ	1	スポーツ	1														
		小計	7																
		英語	4	英語I	1	英語II	1	英語III	1	英語IV	1								
		情報リテラシー入門	2	情報リテラシー入門I	1	情報リテラシー入門II	1												
		社会力入門	1							社会力入門	1								
		科学技術リテラシー入門	1							科学技術リテラシー入門	1								
		愛媛学	1	愛媛学	1														
小計	9																		
基礎科目	4	主 題 (アクティブラーニングの手法を 基 礎 科 目 探 究 用 いた 授 業)	15																
		学 問 分 野																	
		人 文 学 分 野																	
		自 然 科 学 分 野																	
		社 会 科 学 分 野																	
		初級ドイツ語 I		1	初級ドイツ語 II	1	初級ドイツ語 III	1	初級ドイツ語 IV	1	初級ドイツ語 V	1							
		初級フランス語 I		1	初級フランス語 II	1	初級フランス語 III	1	初級フランス語 IV	1	初級フランス語 V	1							
		初級中国語 I		1	初級中国語 II	1	初級中国語 III	1	初級中国語 IV	1	初級中国語 V	1							
		初級朝鮮語 I		1	初級朝鮮語 II	1	初級朝鮮語 III	1	初級朝鮮語 IV	1	初級朝鮮語 V	1							
		初級フィリピン語 I		1	初級フィリピン語 II	1	初級フィリピン語 III	1	初級フィリピン語 IV	1	初級フィリピン語 V	1							
小計	15																		
発展科目	3	サーハン・リーダー養成に関する科目	3																
		環境ESD指導者養成講座に関する科目																	
		愛媛大学リーダーズ・スクールに関する科目																	
		英語プロフェッショナル養成コースに関する科目																	
		スキルアップ科目																	
		食育士プログラムに関する科目																	
		防災エクスパートに関する科目																	
		教員免許に関する科目																	
		自律学習プログラムに関する科目																	
		小計		3															
共通教育科目合計	31																		
注: 教養科目の履修単位数15単位のうち主題探究型科目4単位及び学問分野別科目7単位を差し引いた残りの4単位は、主題探究型科目、学問分野別科目、初修外国語及び高年次教養科目のいずれの単位を取得してもよい。																			

社会共創学部履修単位表

資料14

社会共創学部履修単位表

区分	産業マネジメント学科	産業イノベーション学科	環境デザイン学科	地域資源マネジメント学科
	産業マネジメントコース 事業創造コース	海洋生産科学コース 紙産業コース ものづくりコース	環境サステナビリティコース 地域デザイン・防災コース	農山漁村マネジメントコース 文化資源マネジメントコース スポーツ健康マネジメントコース
共通教育科目	卒業要件 単位数 31単位			
基礎力育成科目群	8単位			
実践力育成科目群	フィールドワーク 科目	11単位		
	インターンシップ 科目	2単位		
	実践力育成 発展科目 (発展的フィールドワー ク・インターンシップを含 む)	4単位	6単位	4単位
	実践力育成 科目群合計	19単位	19単位	17単位
	課題解決思考力 育成科目群	6単位		
専門力育成科目群	学科科目	14単位	24単位	12単位
	履修コース科目	40単位	22単位	36単位
	専門力育成 科目群合計	46単位	46単位	48単位
上記以外 (自己デザイン科目)	8単位			
学位認定科目群	6単位			
卒業要件単位数合計	124単位			

各学科の教育

資料15

産業マネジメント学科の 教育方針

経済のグローバル化が進展し、ヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えて自由に動き回り、経済環境が複雑多様化している。また、経済環境の多様化によって、工学、農学を含めた様々な生産技術やイノベーションを理解した経営管理活動に参画する必要がある。

本学科は、地域経済を構成する企業・住民・自治体などの要素と、企業を構成するヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源について学ぶと同時に、これらを実社会で適切にマネジメントする能力を養うために、地域産業や地域企業と連携して各種プロジェクトの実践を行う。これらを通じて、企業・組織と共に盛り上げ、事業を共に革新する「地域産業振興人材」を育成する。

ディプロマ・ポリシー(DP)

1. 地域産業マネジメント及び事業創造に必要な基礎的知識、専門的知識を修得している。 **(知識・実技)**
2. 地域産業に関する課題の解決に向けて、地域産業マネジメント及び事業創造の専門知識と客観的知見に基づいて多面的に考察し、論理的な思考・総合的な判断に基づいて課題解決策を導き出すことができる。 **(思考・判断)**
3. 地域産業や新規事業の特徴、強み及び課題に対して自ら積極的に関心をもち続けることができる。 **(関心・意欲・態度)**
4. 地域産業を新たな価値創造へと導こうとする意欲を有し、地域産業や事業創造に関する諸課題の解決に取り組むことができる。 **(関心・意欲・態度)**
5. 地域社会の諸課題の解決に必要な情報を、適切な調査・分析方法を用いて収集・整理・分析することができる。 **(技能・表現)**
6. 自らの思考・判断を客観的かつ論理的に表現し、他者との間で討論ができる。 **(技能・表現)**
7. 地域産業マネジメント及び事業創造に向けて、サーハントリーダーシップを発揮することができる。 **(リーダーシップ)**

カリキュラム・ポリシー(CP)

産業マネジメント学科は、「産業を通じての地域社会の持続可能な発展の担い手」として産業マネジメントの人材育成を達成するために、専門教育と課題解決型実践教育を有機的に連動させるカリキュラムを構成する。産業マネジメントや事業創造に関する知識を体系的に修得させるとともに、PBL、アクティブ・ラーニングを用いてマネジメント力、課題解決力を養う。

1. 産業マネジメントに関する基礎知識を幅広く学習し、産業マネジメントと事業創造に必要な専門知識を順次に修得できるように、共通教育、基礎力育成科目群、専門力育成科目群を配置する。
2. 定性的分析、定量的分析の両面から産業マネジメントの諸課題を把握できる専門教育を行い、客観的なデータに基づいた分析・説明する能力を高める調査系・情報処理系科目を配置する。
3. 修得した知識・技能の活用能力の開発を目的とした実践力育成科目群を各年次に有機的に配置し、PBL、アクティブ・ラーニング手法を展開し、地域ステークホルダーと協働しながら地域産業の課題解決を能動的に実践する。
4. 課題解決思考力育成科目群を配置し、学部の特徴を活かして他分野の基礎知識や思考形式の修得を目指すとともに、産業マネジメントに必要な多様な視点と包括的な課題解決力を養うために、学科・学部間の垣根を越えた他学科・他学部科目の履修を推奨する。
5. 学修ポートフォリオを活用しながら、入学から卒業までの一貫性・整合性を確認しながら学生の主体的・能動的な学習によって教育成果を明確にするために、学位認定科目群を配置する。また、社会共創演習Ⅰ・Ⅱを導入し、4年を通して、学生のDPOの達成度を客観的に評価し、自律的な学習を促す。

アドミッション・ポリシー(AP)

1. 高等学校で履修する国語、外国語、数学、地理歴史、公民、理科などに関して、高等学校卒業相当の基礎学力を有している。 **(知識)**
2. 目標を達成するために、多面的視点から論理的に考察し、自己の考えをまとめることができる。 **(思考・判断)**
3. 地域社会や地域企業に関心を持ち、地域産業の持続的な発展に貢献する意欲を有している。 **(関心・意欲・態度)**
4. 様々な人達と協働して、地域社会や地域産業の課題解決に取り組む姿勢を有している。 **(関心・意欲・態度)**
5. 自己の考えを、他者にわかりやすく表現できる。 **(技能・表現)**

産業マネジメント学科の教育

地域産業の持続的な発展に求められる「地域に根差した課題解決型」教育を展開し、専門領域横断型の人材を育成する。

企業・組織を共に盛り上げ、事業を共に革新する地域産業振興人材の育成

合計124単位

実践力育成科目群
(19単位)

多様な人たちとの協働により、複眼的な洞察力・創造力・課題解決力を身に付ける

実践力育成発展科目
(合計6単位)

- 初年次プロジェクト演習
- 基礎データ処理
- 社会調査 I
- 社会調査 II
- インターンシップ実践

インターンシップ科目
(2単位必修)

専門力育成科目群
(46単位)

地域産業をサポートすることができる専門力ないし起業・創業を目指すことができる専門力を身に付ける

履修コース科目

- マネジメント科目
- 地域産業科目
- 会計・財務科目
- 経済・情報科目
- 商業・マーケティング科目
- 他学科科目

自己のキャリアデザインに応じ、授業科目を選択

学科科目

経済学概論、企業システム論、マーケティング概論

※法文学部との連携によって
コース選択科目を設定

自己デザイン科目(8単位)

共通教育発展科目、他学部・他学科科目、単位互換科目等

学位認定科目群(6単位)

共通教育科目
(31単位)

課題解決思考力育成科目群(6単位) 持続可能性科学、地域経済学、統計学など

基礎力育成科目群(8単位) 社会共創学概論、地域調査方法入門、経営入門、サードパーティー入門

社会の仕組みや企業の経営活動を理解することに関心を持ち、社会や企業の課題解決策の立案、地域産業の持続可能な発展に貢献する意欲を有する人材

産業イノベーション学科 の教育方針

地域産業は地域振興の中核的存在として、これまで大きな役割を果たしてきた。近年のグローバル経済の中では、様々な産業分野において更なる改革や多面的な活動が求められている。このような経済の変革に対応するためには、各種産業分野においてイノベーションを持続的に行える人材の育成が急務である。イノベーションを創出するためには、高い技術力のみならず発想力・経営力などの複合的な力を備え、新たな付加価値を生み出す人材が求められる。

本学科では、愛媛県の特徴でもある水産業・紙産業・ものづくり産業を中心とした教育を通じ、日本の産業社会において、技術・技能、経営に関して改善提案できる人材（産業改善提案人材）を育成する。

ディプロマ・ポリシー(DP)

1. 水産業、紙産業、ものづくり等の産業イノベーションに必要な基礎的知識、専門知識を修得している。（知識・実技）
2. 地域産業に生起する諸課題を広範な学問領域の学際的思考から把握することができ、総合的に判断して解決策を提案することができる。（思考・判断）
3. 水産業、紙産業、ものづくり等の産業の特徴、強み及び課題について、自ら積極的に関心をもち続けることができる。（関心・意欲・態度）
4. 地域社会を新たな価値創造へと導こうとする意欲を有し、産業振興と地域活性化のために、水産業、紙産業、ものづくり等の諸課題の解決に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）
5. 適切な調査・分析方法を用いて、産業イノベーションによる地域振興に必要な情報を収集・整理・分析することができる。（技能・表現）
6. 自らの考えを的確に表現し、他者との間で討論・対話することができる。（技能・表現）
7. 水産業、紙産業、ものづくり等の産業に関する諸課題の解決へ向けて、サーバントリーダーシップを発揮することができる。（リーダーシップ）

カリキュラム・ポリシー (CP)

産業イノベーション学科は、愛媛県の特徴である水産業・紙産業・ものづくりを中心とした教育を通じ、日本の産業において技術・技能、経営に関して改善提言できる人材を育成するために、産業イノベーションの基本となる基礎専門知識を修得するとともに、実験・実習等により現場での実践基礎力及び課題解決能力を養う。

1. 産業イノベーションに関する基礎知識を幅広く学修し、水産業、紙産業、ものづくりを学びの場とし、産業社会に関する必要な専門知識を順次に修得できるように、共通教育科目、基礎力育成科目群、課題解決思考力育成科目群、実践力育成科目群、専門力育成科目群を配置する。
2. 産業の発祥・成長・発展に関する基礎知識を学修した上で、学問的専門領域の視点から水産業、紙産業、ものづくりに関する知識や相互の課題について体系的に学ぶために、学科科目を配置する。
3. 履修コース科目の必修科目及び選択必修科目では、広範囲に応用可能な基礎科目が配置され、さらに基礎知識を確実に修得できるように実験・実習等を開講する。また、企業経営的な視座を養うために、経営・マネジメント科目（他学科科目）を配置する。また、主体的に専門性を広めていく選択肢として、他学部科目の履修を推奨する。
4. 自己デザイン科目として、他学科の専門力育成科目群、さらには、他学部との相互連携による専門教育科目を通じて、産業イノベーションに関わる自然科学・社会科学の双方を含んだ幅広い学問分野を学ぶ。
5. 実践力育成発展科目として、地域ステークホルダーと協働して地域産業の課題解決に取り組み、地域産業の現状把握と実践力を育成するための科目を配置する。

アドミッション・ポリシー(AP)

1. 高等学校で履修する範囲の基礎学力または水産業や工業などに関する知識を有している。（知識）
2. 目標を達成するために、産業に関わる様々な事象を多面的に考察し、論理的・総合的な考え方を判断ができる。（思考・判断）
3. 地域社会の持続的な発展に関心を持ち、水産業・紙産業・ものづくり等の産業イノベーションに積極的に関わろうとする意欲を有している。（関心・意欲・協働）
4. 目標の達成に向けて様々な人々と協働して、問題の発見とその解決に取り組む姿勢を有している。（関心・意欲・協働）
5. 他者の意見を理解し、自分の考えをわかりやすく表現できる対話力がある。（技能・表現）

産業イノベーション学科の教育

産業技術開発に必要な基礎理論と技術、新技術の普及に不可欠な経営とマネジメントに関する基礎知識を修得し、これらを横断的に幅広く利用することで、地域産業の発展に貢献できる専門性をもったゼネラリストを育成する。

日本の産業社会において、技術・技能、経営に関して改善提案できる産業改善提案人材の育成

合計124単位

実践力育成科目群
(17単位)

多様な人々との協働により、複眼的な洞察力・創造力・課題解決力を身に付ける

実践力育成発展科目
(合計4単位)

- 産業イノベーション
セミナー I
- 産業イノベーション
セミナー II
- インターンシップ実践
- インターンシップ応用

インターンシップ科目
(2単位必修)

フィールドワーク科目
(11単位必修)

学位認定科目群 (6単位)

専門力育成科目群
(48単位)

専門領域横断の学際的思考にもとづき、地域産業の課題解決に導くための専門力を身に付ける

自己のキャリアデザインに応じ、
授業科目を選択

履修コース科目

- 〈海洋生産科学系〉
- 生命・環境科学
系列科目
- 社会科学系列科目
- 〈紙産業系〉
- 紙産業専門系科目
- 現場密着型
実践系科目
- 他学科科目
- ものづくり専門系科目
- 実験・実習系科目

※農学部との連携によって
コース選択科目を設定

※工学部との連携によって
コース選択科目を設定

学科科目

- 地域産業概論・産業技術調査・
海洋生産科学概論・紙産業概論・ものづくり概論・
産業経済論・産業文化論

共通教育科目
(31単位)

課題解決思考力育成科目群 (6単位)

持続可能性科学、産業イノベーション論、統計学など

基礎力育成科目群 (8単位)

社会共創学概論、地域調査方法入門、経営入門、サーボントリーダーシップ入門

地域の水産業・紙産業・ものづくり産業に関心を持ち、様々な人々と協力しながら、幅広い視点と多面的な考察をもとに、地域産業の持続可能な発展に貢献したいという意欲をもつ人材

自己デザイン科目 (8単位) 共通教育発展科目、他学部他学科科目、単位互換科目等

環境デザイン学科の 教育方針

2 1 世紀に入り、地域社会は、地球環境問題や巨大災害の勃発をはじめ、その持続性を根底から崩しかねない危機に直面している。こうした危機の時代にあつて、人間と環境の共生のあり方、地域社会のあり方、さらには科学技術のあり方といった根本的な問題を改めて問われている。

本学科では、自然科学と社会科学の横断的な専門教育と現場での実践的教育の下、自然環境と社会環境の総合的デザインに関わる専門的、実践的な知識・技術に基づいて、地域社会が抱える危機（都市集落機能衰退化問題・自然災害問題・地球環境問題・商店街崩壊衰退化問題など）に対処し、持続可能で強靱な地域社会や地球環境の創造に向けて、地域政策や国際政策を運営・推進できる環境デザイン創造人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー(DP)

1. 理系や文系の広範な学問領域における基礎的素養を有し、これらを合わせて人間と環境との相互関係を理解し、デザインするための専門的・応用的な知識を修得している。 **(知識・実技)**
2. 理系及び文系的思考の下、全体を俯瞰する総合的な視座に立ちながら、地域社会・環境の改善に向けた将来ビジョンを策定・調整することができる。 **(思考・判断)**
3. 地域社会・環境のサステナビリティに関する諸課題に対して、自ら積極的に関心をもち続けることができる。 **(関心・意欲・態度)**
4. 地域社会を新たな価値創造へと導こうとする意欲を有し、地域社会・環境のサステナビリティに関する諸課題の解決に取り組むことができる。 **(関心・意欲・態度)**
5. 適切な調査・分析方法を用いて、自然環境との共生をもたらず地域社会デザインに必要な情報を収集・整理・分析することができる。 **(技能・表現)**
6. 自らの考えを的確に表現し、他者との間で討論・対話することができる。 **(技能・表現)**
7. 地域社会・環境の諸課題の解決へ向けて、サーバントリーダーシップを発揮することができる。 **(リーダーシップ)**

カリキュラム・ポリシー(CP)

環境デザイン学科は、環境デザインに関わるフィールド実習に基づく課題解決型学習をカリキュラムの基軸に据えて、その実践的課題解決に必要な関連基礎・専門科目を有機的に学ぶ。学科必修・選択必修科目では、環境デザインに関する基礎知識を学んだ上で環境サステナビリティ領域と地域デザイン・防災領域において、地域社会・環境に関する課題について、体系的かつ実践的に学ぶ。特に、学科の共通分野として、自然環境、社会環境、人間活動の相互関係を総合的に理解する専門科目を学ぶ。

1. 理論と実践をバランスよく学び、地域社会・環境に関する課題を発見・解決する能力を修得するため、学科共通のフィールド科目及びインターンシップ科目を配置する。
2. 履修コース科目の選択科目では、各領域において理系、文系の横断的知識やさらに深化した専門知識を修得する。特に、環境サステナビリティ履修コースでは、環境影響評価分野と環境保全分野に関する専門科目、地域デザイン・防災履修コースでは、地域政策デザイン分野と地域空間デザイン分野に関する専門科目を配置する。
3. 履修コース科目において、他分野における人間と環境の相互関係の捉え方を理解し、デザインするための基礎的・応用的知識を修得するため、他学部科目の履修を推奨する。

アドミッション・ポリシー(AP)

1. 高等学校で履修する国語・外国語・地理歴史・公民・数学・理科などに関して、高等学校卒業相当の基礎学力を有している。 **(知識)**
2. 目標を達成するために、多面的視点から論理的に考察し、自己の考えをまとめることができる。 **(思考・判断)**
3. 環境サステナビリティ・地域デザイン・防災に関して、知的好奇心と学ぶ意欲を有している。 **(関心・意欲・協働)**
4. 社会全体の利益に配慮する公共心を持って、様々な人達と協働して熟意を持って地域社会の課題解決に取り組む姿勢を有している。 **(関心・意欲・協働)**
5. 他者の意見を理解し、自己の考えをわかりやすく表現できる対話力がある。 **(技能・表現)**

環境デザイン学科の教育

地域社会が抱える危機（都市機能衰退化問題・商店街衰退化問題・自然災害問題など）に対処し、持続可能で安寧な地域社会や地球環境の創造に向けて、地域政策や国際政策を運営・推進できる人材を育成する。

グローバルな視野を持ちつつ、地域に根ざす歴史や文化を土台にして、次世代の都市や地域社会、地球環境をデザインし、その実現に向けて社会的な合意形成を導きつつ、地域公共政策を運営・推進できる人材の育成

合計124単位

実践力育成科目群
(19単位)

多様な人たちとの協働により、複眼的な洞察力・創造力・課題解決力を身に付ける

実践力育成発展科目
(合計6単位)

- 環境デザイン
フィールド実習 I・II
- インターンシップ実践
- 環境デザイン
ゼミナールI~IV
- 国際プレゼン
テーション演習
- 環境情報処理演習

インターンシップ科目
(2単位必修)

学位認定科目群 (6単位)

専門力育成科目群
(46単位)

地域社会や地球環境の現状と課題を理解し、地域の公共政策を運営・推進する専門力を身に付ける

履修コース科目

- 環境サステナビリティ系科目
- 環境保全科目
- 環境影響評価科目
- 公共デザイン科目
- 地域防災科目

自己のキャリアデザインに応じ、授業科目を選択

理工学部生物学科/地球学科

工学部社会デザイン系
環境建設工学科

学科科目

- 環境デザイン概論、環境デザイン課題研究 I・II、環境デザインゼミナール I・II・III・IV、技術・環境倫理学、地球環境学、環境デザイン論、地域デザイン論、統計学など

共通教育科目
(31単位)

課題解決思考力育成科目群 (6単位)

基礎力育成科目群 (8単位)

持続可能性科学、社会心理学、地域経済学など

社会共創学概論、地域調査方法入門、経営入門、サウンビトリナーシップ入門

理系と文系に関わらず、環境問題や地域社会の問題に関心を持ち、社会全体の利益に

配慮する公共心を持って、様々な人達と協働しながら地域の課題解決に取り組むことに意欲を有する人材

自己デザイン科目 (8単位)

共通教育発展科目、他学部、他学科科目、単位互換科目等

地域資源マネジメント学科 の教育方針

地域社会を持続可能な発展へと変化させ、次世代に継承すべき文化芸術の心「生活基盤の安定をもたらす生物資源の再発見・再活用すべき技術」超高齢社会をたくましく生き抜き健康と体力を備えた体を有効的に活用することが求められている。『農山漁村の特長ある産業、文化・観光、地域スポーツ・住民の健康』は重要な地域資源であり、これらに有する地方は、将来その融合的な取り組みによる活性化を究極的課題としている。

本学科では、農山漁村の活性化・観光資源の掘り起し・地域スポーツと健康づくりにより健康寿命の延伸・地域振興などの地域の諸課題の解決に貢献できる地域資源に関する幅広い専門知識及び研究能力、並びにこれら資源を社会で活用・創造等ができるマネジメント能力を養い、多様な地域ステークホルダーとの協働を通して地域の資源を活かした活動（企業内外含む）を行い、農山漁村振興・地域資源発掘・スポーツ健康保持増進を担う「地域社会再生人材」を育成する。

ディプロマ・ポリシー(DP)

1. 地域資源に関する基礎知識と農山漁村の特長ある産業、文化・観光、スポーツ・健康に関する専門的知識及び実技力を修得し、これらの知識や収集した情報を活用する実践力を身に付けている。 **(知識・実技)**
2. 地域社会で生じる諸課題を発見し、その課題を解決に向けて的確に考察し、資源活用観点から総合的判断ができる。 **(思考・判断)**
3. 地域資源を活用した地域社会の再生と活性化に、自ら積極的に関心をもち続けることができる。 **(関心・意欲・態度)**
4. 地域資源を活用した地域社会の再生と活性化へと導こうとする意欲を有し、地域社会の諸課題の解決に取り組むことができる。 **(関心・意欲・態度)**
5. 地域資源を活用した地域社会の再生と活性化に必要な情報を収集・整理・分析できる。 **(技能・表現)**
6. 自己の思考・判断のプロセス及び結果を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。 **(技能・表現)**
7. 地域資源を活用した地域社会の再生と活性化に向けて、サブアントリーダーシップを発揮することができる。 **(リーダーシップ)**

カリキュラム・ポリシー(CP)

地域資源マネジメント学科は、地域資源に関する幅広い専門知識及び研究能力、これら資源を社会で活用・創造等ができるマネジメント能力を養い、多様な地域ステークホルダーとの協働を通して地域の資源を活かした活動によって地域社会再生に貢献できる人材を育成するために、次の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成する。

1. 地域資源に関する基礎知識とその活用、ならびにマネジメントに関する専門科目を必修化し、さらに、地域資源の幅広い学問領域において、専門知識を融合する思考力を涵養し、体系的に修得するため、学科科目を配置する。
2. 高学年次は、学問系列（コース）ごとに分けて各資源に関連する専門的実践力を涵養する履修コース科目を、選択必修科目として配置する。本科目群は、DP（知識・実技） / （思考・判断） / （関心・意欲・態度）に強く関連する。
3. 地域社会の課題解決に取り組む、社会共創力を身に付けるためにアクティブラーニングを展開する。
4. 地域社会の再生と活性化に向けて、サブアントリーダーシップを発揮し課題解決へと向かうべく、共通の教育手法として、コースもしくは複数のコースが協力して行うフィールドワークを展開する。また自己確立とキャリア探究の基礎を構築するインターンシップ科目を配置する。
5. 地域資源のマネジメント及び多様な地域ステークホルダーとの協働をコーディネートする知識の涵養と自己の将来設計のために、他学科専門力育成科目のみならず、共通教育科目や他大等学部科目までの相互連携により、幅広い学問分野の履修を推奨する。
6. 社会共創力の修得に向けて、ゼミナールを設けて少人数教育によって取り組む学位認定科目群を配置する。卒業研究・自由課題研究を設け、少人数教育によって懇切丁寧な個別指導を行う。卒業認定に向けたこれまでの正課教育・準正課教育・正課外活動での学習の振り返りを行った上で学位認定に必要な知識や情報を収集し、自ら課題解決の策定及び成果発表をサポートする社会共創演習科目も併せて配置する。本科目群は、DP（知識・実技） / （思考・判断） / （関心・意欲・態度） / （技能・表現） / （リーダーシップ）に強く関連する。

アドミッション・ポリシー(AP)

1. 高等学校で履修する範囲の基礎学力または専門的な知識及び実技力を有している。 **(知識・実技)**
2. 地域の産業、文化、スポーツに関わる様々な事象を、多面的視点から論理的に考察し、自己の考えをまとめることができる。 **(思考・判断)**
3. 地域社会の持続可能な発展に関心を持ち、積極的に関わろうとする意欲を有している。 **(関心・意欲・協働)**
4. 様々な人々とグループワークしながら、主体的に問題の発見とその解決に取り組む姿勢を有している。 **(関心・意欲・協働)**
5. 他者の意見を理解し、自己の考えを口頭または文書で表現できる。 **(技能・表現)**

地域資源マネジメント学科の教育

地域資源に関する幅広い専門知識及び研究能力、並びにこれら資源を実社会で活用・創造等ができるマネジメント能力を養い、多様な地域ステークホルダーとの協働を通して地域の資源を活かした活動（企業内外含む）をコーディネートできる人材を育成

地域の担い手としての自覚を持ち、実践することができる地域社会再生人材の育成

合計124単位

実践力育成科目群
(17単位)

多様な人たちとの協働により、複眼的な洞察力・創造力・課題解決力を身に付ける

実践力育成発展科目
(合計4単位)

インターンシップ実践
インターンシップ応用

文化資源論 I
文化資源論 II

障がい者スポーツ健康実習
少年期スポーツ健康実践 など

インターンシップ科目
(2単位必修)

学位認定科目群 (6単位)

専門力育成科目群
(48単位)

多様な地域資源（農林漁業・文化・観光・スポーツ文化）を知り、コミュニティを活性化するための専門力を身に付ける

履修コース科目

生物資源学原論
系列科目
地域学系列科目
起業論系列科目

文化遺産領域科目
観光文化領域科目
まちづくり領域科目

地域スポーツ振興系科目
地域健康づくり系科目
地域文化・スポーツ
創出系科目

自己のキャリアデザインに応じ、
授業科目を選択

※教育学部との連携によって
コース選択科目を設定

学科科目

地域資源融合論、地域マネジメント論、農山漁村論、地域活性化論、
観光地形成論、地域文化論、生涯スポーツ概論、地域健康づくり論、
身体運動論、地域資源融合実習 I・II

共通教育科目
(31単位)

課題解決思考力育成科目群 (6単位)

持続可能性科学、地域社会学論、質的データ収集と分析など

基礎力育成科目群 (8単位)

社会共創学概論、地域調査方法入門、経営入門、サードセクター・ベンチャー・ダイバーシティ入門

地域で生じる様々な事象を多面的に考察し、地域の独自性や固有性に興味を持ち、
目標の達成に向けて様々な人々と協力することができる人材

自己デザイン科目 (8単位)

共通教育発展科目、他学部・他学科科目、単位互換科目等

**社会共創学部における科目
ナンバリング制度**

資料16

例(仮):『社会共創学』RM1A-9HSS01-16

LD + 1 + A + 9 + CRI + 01 + 16

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】

【1】開講学部学科 社会共創学部産業マネジメント学科 【2】学年レベル 1 回生 【3】科目区分 基礎力育成科目群 【4】分野大分類 総合 【5】科目分類 社会共創学 【6】科目番号 01 【7】登録年度 2016

【1】開講学部学科

アルファベット2文字で、1文字目が「学部」、2文字目が「学科等」を表す。同様に大学院の研究所・専攻等も標記可能である。

[社会共創学部 産業マネジメントRM 産業イノベーションRV 環境デザインRE 地域資源マネジメントRR]

【2】学年レベル

[学士1回生:1、学士2回生:2、学士3回生:3、学士4回生:4、修士・博士前期1年 (医学科5回生):5、修士・博士後期2年 (医学科6回生):6、博士・博士後期1年:7、博士・博士後期2年:8、博士・博士後期3年(医学専攻4年を含む):9]

【3】科目区分

学部カリキュラムの区分にかかるコード、学部ごとによりキュラム・ポリシーにあわせて設定する。視認性を高めるためにアルファベット1文字とし、最大26区分が設定可能。

[A:基礎力育成科目群、B:課題解決思考力育成科目群、C:実践力育成科目群、D:専門力育成科目群、E:自己デザイン科目、F:学位認定科目群]

【4】分野大分類

全学統一された基準で分類する(大学全体である分野の科目数を把握する機能を持たせる)。

[語学1 人文科学2 社会科学3 理学5 医学6 工学7 農学8 総合9 その他0]

* 総合9は学問分野が融合している場合

* その他0は総合的な人間形成にかかわる科目など。例えば共通教育の初年次科目。

【5】科目分類

授業内容の概要を示すために用いる。科学研究費助成事業の「系・分野・分科・細目表」の「分科」を元に作成し、視認性を高めるためにアルファベット3文字とする。基本的には学問領域の英語名から母音を削除し、重複を避けて子音3文字で表現する(例:JAPAN ⇒ JPN)。ただし、この表にない分類名も作成する必要がある(例:初年次科目 ⇒ FRS/freshmen-classes)。

以下、例示(案):

哲学 philosophy ⇒ PHL、文学 literature ⇒ LTR、史学 history ⇒ HST、等

数学 mathematics ⇒ MTH、天文学 astronomy ⇒ AST、物理学 physics ⇒ PHY、等

【6】科目番号

アラビア数字2文字、科目群の中のそれぞれの科目のIDとなる。

【7】登録年度

西暦の下2桁を、必要となしに加える。